

われに千里の思いあり

中村彰彦（文学部）

書評…東北大出身者しばりと
いうことで、私は文学部出身の
中村彰彦氏の作品『われに千里
の思いあり』を紹介しようと思
う。本書は加賀藩主前田利常・
光高・綱紀の三代を描いた歴史
小説である。その中でも、上・
中巻の中心となるのが、加賀藩
の繁栄と安定をもたらしたとさ
れる名君利常である。

昨今のゲーム等の影響で、前
田利家や前田慶次の名前はいく
らか有名になったようだが、前

田利常の名前を知っているとい
う方は少ないのではないだろう
か。彼は前田利家の側室（本書におい
ては洗濯女）の子で、本来藩主
となるべき子ではなかつたが、
兄の死を受けて加賀藩主となつ
た人物である。加賀百万石と称
されるように、加賀藩は外様最
の大名家であり、利常は徳川
家から警戒されないようにわざ
と鼻毛を伸ばしてバカ殿を演じ
ていたという逸話もある。井伊
直孝に自分の股間を見せつけた
という話もある。

私は昨年度の逍遙幻想道学祭
号の企画である、「美少女書評」
においても中村氏の作品『豪姫
夢幻』を紹介した。中村氏は歷
史上の表舞台の有名な人物以上
に家臣や女性を描くのに長じた
作家だと私は思う。本書におい
ても、徳川秀忠の娘で利常の妻
である珠姫や女中のお鏡、利常
の腹違いの姉である豪姫など、
魅力的な女性が多く登場する。
特に珠姫と利常が夫婦となつた
時は利常八歳、珠姫二歳であり、
その可愛らしさの破壊力が尋常
ではない。（文春文庫／800円／
担当：水無月朔）

